

# 今西幸蔵教授を送る

水谷 勇

今西幸蔵教授が、10年弱に渡る神戸学院大学での教職生活を定年退職という形で終わられる。水谷自身、2003年に赴任したときには意欲ある担当職員に押されて、2年後に主任を引き受けて、神戸市のスクールサポーターへの参加はじめいくつかの取り組みをすることができた。ポアアイ移転に伴って空いた法・経営学部の院生研究室を活用しての教職支援室の設置と、いくつかの申請業務をこなしてきた。これらは今西先生の前任者である原早稲田大学教育学術院教授の小松茂久氏の協力と支援があって実現したものである。対外関係では、文科省・中教審の視察をこなし、聖徳大学、神戸親和女子大学との小学校教員免許取得での提携、兵庫教育大学との連携に取り組むことができた。

これらの取り組みを別次元へと高めてくださったのは、その後に主任を引き受けてくださった今西教授の功績によるものである。今西教授は、教育委員会での経歴や高校での教員経験のみならず、それらを生かして活躍された京都学園大学や天理大学での経験をもとに、職員配置のある教職支援室の実現、『教職教育センタージャーナル』の発刊など数々の難事業を実現するという手腕を発揮されてきた。敬服するばかりである。今西教授は、水谷が赴任する前年から始まっていた地域研究センターの生涯教育分野の学外研究協力者として参画されており、本学との関わりにおいては1年先輩であったが、当時は京都学園大学教授であられ、京都学園大学やら、東京のユネスコや教育新聞社など、いろいろと案内いただきご指導いただいた。今西教授が本学の専任になられたのは、その後天理大学に移られ、その業績と人望から重責を担われ活躍を期待される場所であったが、先に述べたように小松教授の早稲田への転任に伴って、人事が起り、縁あって本学の専任教員としてお迎えすることができたのである。大ベテランで有り、水谷よりもあらゆる面で知見に秀でた方であったが、9つ年下の水谷を先輩として良く立ててくださり、些細なことも相談されて進めてこられた。ここにも先生のお人柄がうかがわれる。

授業にも研究にも、緻密に取り組まれ、学生の評価は大であった。教職をめざす優秀な学生はこぞって今西教授の元を訪れ、多くの教員を輩出された。現役合格者を排出することを可能にし、その後も一定数の合格者（卒業生を含む）を毎年出すことができたのも先生のおかげと言っても過言ではない。

よく、授業やゼミで行ったことを授業計画書に書き留めておられる姿が頭に焼き付いている。それだけ学生指導に緻密かつ熱意を傾けて取り組まれておられた。

もちろん事務方の強力なサポートもあってのことであろうが、そうしたサポートを引き出したのも、教職に使命を賭けて熱心に取り組まれた今西教授があってのことである。大学として教職をもち立てていく気風も定着してきた。エネルギーに組み込み、いろいろと学生のためご自身のために、精力的に取り組んでこられた。本学をお辞めになった後

もまだまだ新天地の別の大学でご活躍なさると聞く。健康にお気を付けて、一層のご活躍を祈念するものである。

退職された後も、本学をお気にかけてくださり、引き続き叱咤激励してくだされば望外の喜びである。

（2018年1月31日記）